



ふるコンだより

発行責任者

宇部市ふるさとコンパニオンの会

会長 脇 彌生

新しい年の幕開けとともに、「厚南開作の守護神を巡る」から始まった「宇部市ふるさとコンパニオンの会」の活動は、常盤公園誕生 100 年という節目を迎え、公園の魅力を再発見するウォーキングイベントや、地域の歴史や自然、文化を肌で感じる数々の活動を重ねてきました。地元の中学生や高校生との交流を通じて、次世代への継承も着実に進んでいます。100 年前の想いを未来へと繋げるために、私たち「ふるコン」はこれからも、地域の魅力を伝え、学び合い、歩み続けていきます。

てくてくまち歩き「厚南開作の守護神を巡る」

1/11

巳年の新春を迎え、少し冷たい風の吹く中、32 名の参加者が 2 班に分かれて、厚南平野の神社巡りを楽しみました。

江戸時代の初め頃、現在の厚南平野は遠浅の海でした。当時の萩藩では、瀬戸内沿岸の海を干拓して陸地化する「開作(かいさく)」が藩を挙げて進められました。主な目的は新田開発による米の増産で、宇部市内にも「〇〇開作」といった地名が今も多く残っています。

開作を進めるには、まず堤防をしっかりと築く必要がありますが、開作の歴史の中では、大雨などによって堤防の決壊することがしばしばあったからです。そのため、開作の前や完成後に、堤防の傍らに守護神を祀る神社が建てられるようになりました。これらの神社は、現在も地域の方々によって大切に守られています。

今回は新春にふさわしく、それぞれの開作に祀られた守護神の神社を巡る「てくてくまち歩き」となりました。

最初に訪れたのは、上開作の守護神・少童(わたつみ)神社です。



少童神社

鳥居の奥には上開作の自治会館が建っており、御神体はその建物内に安置されています。事前に

自治会長さんをお願いし、当日開館していただき、全員でお詣りすることができました。主祭神の少童大神は海の神様で、「綿津見」とも書き、童の姿で現れるとされることから「少童」と書くようになったようです。

次に向かったのは、中野開作の守護神・埴安(はにやす)神社です。天明 2 年(1782 年)、中野開作の築堤時に祀られました。主祭神の埴安大神は土地の神様です。なお、御撫育用水は当初、中野開作の水不足を解消するために整備されたものであり、他への流用は禁止されていました。



田阪四方蔵頭徳碑

埴安神社へ向かう途中、厚東川堤防下には「田阪四方蔵(たさかよもぞう)頭徳碑」があります。四方蔵は萩藩の家臣でしたが、後に萩から上開作に移住し、寺子屋「桃蹊(とうけい)堂」を開設しました。塾生は 80 人を超え、藩内でも有数の規模を誇りました。明治に入ると、厚南村や藤山村の戸長(のちの村長)として行政面でも活躍しました。

最後にお詣りしたのは、妻崎開作の守護神・妻崎神社です。主祭神は、市杵島姫(いちきしまひめ)命・湍津姫(たきつひめ)命・豊玉姫(とよたまひめ)命で、いずれも海や水に関わる神々です。10 代藩主・毛利齋熙(なりひろ)は神社に鏡を寄進し、藩の重臣である当職と当役も鳥居を奉納しま

した。また、撫育方の役人によって石灯籠も寄進されるなど、妻崎開作への萩藩の並々なぬ思いがうかがえます。



妻崎神社

神社の境内には、昭和 17 年に厚南地域に甚大な被害をもたらした「周防灘台風」の受難追悼記念碑が建てられています。一瞬にして厚南平野が開作前の海へと戻ったともいわれるほどの災害で、私たちはその歴史を決して忘れてはならないと感じました。

妻崎神社を後にし、境内裏手の中野開作堤防跡に沿って歩いた後、中川沿いの堤防を歩いて帰路につきました。

新春の三社詣りは、開作の歴史を知る良い機会となり、参加者からも「楽しかった」「勉強になった」と好評でした。(藤笠)

てくてくまち歩き「周防長門の国境、鍋島の思い出」

2/9

かつて山口県は、周防国と長門国という二つの国に分かれており、宇部市内にその国境が存在していました。現在も国道 190 号線を車で走ると、亀浦付近の中央分離帯に「周防・長門の国境」と刻まれた石碑を見ることが出来ます。

その国境を実際に歩いてみたいと思いましたが、宇部市全域を歩くのは難しいため、ときわ公園から大沢方面へ向かって歩くことにしました。すると、その道中

でまず思い出されたのが、1998 年に山口宇部空港の滑走路延長工事に伴い姿を消した「鍋島」でした。

そこで今回のまち歩きは「周防長門の国境 Part① 鍋島の思い出」と題し、この場所をてくてく歩くことにしました。

当日は、前日までの雪模様が嘘のように晴れ間が広がり、ところどころに雲は見えたものの、寒さの中でも気持ちよく歩くことができました。

国境に沿って歩き、鍋島がかつてあった辺りに近づくと、鍋島周辺でよく遊ばれていた参加者の方々から、当時の暮らしや思い出話を伺うことができました。



かつて存在した「鍋島」の写真説明

また、常盤ふれあいセンター近くでは、「朝ご飯は周防国で食べ、夜は長門国で寝ていた家があった」との話も聞くことができました。東側に玄関と台所があり、西側に寝室があつて、ちょうど家の真ん中を国境が南北に走っていたとのことでした。

今回のまち歩きを通じて、昔の地域の様子や人々の暮らしに触れることができ、楽しく貴重なひとときとなりました。(伊藤)

てくてくとときわ公園「常盤公園誕生から 100 年」特集

今年の「てくてくとときわ公園」は、常盤公園誕生 100 年を記念して、全 3 回の特集企画として開催しています。Part③は 9 月 27 日に開催予定です。

Part① ————— 4/26

テーマ：「常盤湖の歴史と成り立ち & あまり知られていない彫刻たち」

第 1 回は、ときわスポーツ広場をスタート・ゴール地点とした園内 1 周コースで実施。18 名の参加

者とともに、周遊園路の自然や彫刻、史跡の魅力、常盤公園開設当時の歴史についてご紹介しました。

常盤湖は完成当初、周囲約 12 km ありましたが、一部の入り江が埋め立てられたほか、1967 年の常盤橋、1992 年の白鳥大橋の完成により、現在は約 5.7 km の周遊が可能となっています。



「炭生跡」の説明看板前にて

当日は、ときわスポーツ広場から南東へ時計回りに歩きながら、八重桜、御衣黄（ぎょいこう）、豆桜、藤、満開のドウダンツツジなど、園内の花々をご紹介。途中、「炭生（たぶ）跡」では、かつて常盤湖周辺に約 280 箇所もの炭生があり、江戸時代から石炭採掘が行われていた歴史についてお話ししました。

ガイド後、「季節の花が見られてとても良かった」「たくさん新しい発見があった」といった感想をいただきました。(信濃)

Part② ————— 5/24

テーマ：「年譜で辿るときわ公園」

あいにくの雨模様となりましたが、9 名の熱心な参加者にお越しいただきました。今回は伊藤会員、上田会員が常盤公園の年譜をもとに、それぞれの施設の変遷を写真などを交えてご紹介しました。

常盤公園のかつての入口は、現在のレストハウス周辺にありました。桜の季節には「花見バス」が出るほど賑わっていた様子が、昭和初期の絵葉書からうかがえます。遊園地では、西日本初のジェットコースターの紹介や、公害の影響で松山町の宮大路動物園から移ってきた動物たちの話、日本初の石炭記念館の歴史などを解説しました。

また、雨天の影響で「常盤公園 100 周年記念式典」の会場が彫刻

の丘から湖水ホールへ変更されていたため、休憩を兼ねて立ち寄り、マルシェの様子も見学。その後、UBE ビエンナーレ彫刻の丘は屋内のライブラリーで説明し、希望者の方には植物館内もご案内しました。



植物館で、まもなく開花の巨大コンニャク「アモルフォファルス・デカス・シルヴァエ」

雨の中でしたが、説明時にはできるだけ屋根のある場所を選び、参加者の皆様にも「ときわ公園の歴史がよく分かって良かった」

「普段歩かない場所を歩けたこと、昔と今の違いを楽しめた」「天気の良い日に、もう一度昔の気分になりながら歩いてみたい」と好評でした。(脇)

■100 周年記念イベント・展示

ときわ湖水ホールでは、「ときわ公園の歩み」を当時の新聞記事で振り返るパネル展示「ときわ公園タイムズ」が行われました。10 枚の大きなパネルに歴史が分かりやすくまとめられており、イベントの合間に多くの方が熱心にご覧になっていました。

11 時よりイベントが始まり、午後 1 時から茶道裏千家淡交会宇部支部の方々による茶席や午後 2 時からは記念式典が執り行われ、式典後には餅まきも行われました。舞台では、南蛮音頭やフラダンスの披露、ときわ公園に因んだ謎解きクイズを製作している宇部商業高校商業研究部、また常盤中学校 3 年生による「ときわ学」のプレゼンテーションもありました。その中では、1 年生のときに私たち「ふるコン会員」が協力した彫刻清掃の活動も紹介され、嬉しいひとときとなりました。(信濃)

常盤中学校 1 年生「彫刻清掃」 5/28

常盤中 1 年生約 160 名と引率の先生 8 名が地域学習「ときわ学」の一環として UBE ビエンナーレ彫

刻の丘に到着、30 班に分かれて彫刻清掃と動物園の見学が行われました。

ふるコン 15 名はひとり 2 班を受け持ち生徒さん達と一緒に活動。常盤中学校の彫刻清掃は今年で 5 回目になります。最初に生徒主導の開会式で宇部市文化振興課職員・ふるコン会員の自己紹介、彫刻清掃の諸注意などがありました。

前半の 14 班は事前に準備された清掃道具を持って担当の彫刻へ移動し、彫刻の説明を聞き清掃方法を確認して取り掛かりました。バケツで汲んできた水を彫刻にかけて汚れを浮かしスポンジやたわしできれいにしていきます。脚立は使わず、手の届く範囲を一生懸命掃除しました。周りの草やゴミも片付けました。

後半の 16 班は最初に動物園に移動し、職員さんより「動物園ってどういうところ？飼育員のお仕事」の話の聞き、ふるコン会員がアジアの森林ゾーンをガイドしました。その後前半と後半の班が入れ替わり動物園見学、彫刻清掃が行われました。終了式では感想や御礼とともに文化振興課から「春分の日、秋分の日に彫刻清掃がときわ公園や市街地で行われている」と紹介がありました。



彫刻清掃の様

彫刻清掃のアンケートには「楽しかった」「いつもより近くで見ることができたり、触ったりすることができた」「彫刻の見方が変わった」「彫刻について詳しく知ることができて良かった」「また彫刻清掃をやってみよう」というようなうれしい反応がありました。(池田)

「常盤公園櫻山」の絵葉書から

昭和初期の宇部の名所である

常盤公園には、いくつかの絵葉書が残されています。その中の一枚に、「(宇部名所) 常盤公園 櫻山 眺橋」と記されたものがあります。この橋は東側から見ると、右手に常盤池、左手には「眺め池」(現在の噴水池、じゃぶじゃぶ池)と呼ばれていた入り江の池が広がっていました。1920 年(大正 9 年)、湖畔の別荘地に木下芳太郎が吉野桜を百数十本植えたことから、この一帯は「櫻山」と呼ばれるようになり、花見の季節にはバスが運行されるほど多くの人で賑わいました。



(宇部名所) 常盤公園 櫻山 眺橋

眺橋を渡った左手には茶店があり、絵葉書には白いエプロン姿の女性が二人、橋のたもとに立っている様子が写っています。おそらく茶店の女給さんだったのでしょう。

この「(宇部名所) 常盤公園 櫻山 茶店の前」の絵葉書を拡大してみると、茶店の名前は「櫻山食堂」とあり、看板には「A 定食 弍圓五拾銭也」「B 定食 弍圓也」「C 定食 壹圓五拾銭也」と書かれています。「櫻山ランチ」は料理三品にコーヒー付きで六拾銭也。今でいうランチセットのようで、当時としては洒落たものでした。



(宇部名所) 常盤公園 櫻山 茶店

また、左の看板には「初恋の味カルピス」の文字も見え、カルピスが古くから親しまれていたことが分かります。

木下芳太郎が桜を植える 3 年前には、すでに数軒の別荘が立ち並んでおり、中でも坑木商・上田孫

市は常盤池のそばの約 7,000 坪(2.3 ヘクタール)に別荘を構え、料亭「ひさご亭」を開業しました。池で採れるフナやコイに加え、後には養殖されたワカサギ料理も評判だったといえます(『ときわ公園物語』より)。

ひさご亭には離れがあり、ボートを浮かべて芸者とともに楽しむ様子が別の絵葉書にも残されています。印象的なのは、その建物の基礎部分が湖の中にあり、建物の一部が水面にはみ出していたことです。このコンクリートの基礎は戦後も残っており、ご記憶の方も多いことでしょう。

宇部が市制を施行すると、國吉市長が「常盤公園は宇部の公園」と報告したこともあり、個人所有のままではふさわしくないという声が高まりました。その後、やむなく財産整理をせざるを得なくなった上田孫市は「ひさご亭」を含む 7,000 坪の土地を手放すこととなり、相談を受けた渡邊祐策翁は、急を要する事情があり自ら 15,000 円で購入し、宇部市に寄贈することを決めました。

「ひさご亭」はその後、上田氏のもとで料理長を務めていた入海幾太が引き継ぎ、さらに経営者が変わった後、昭和 30 年ごろには「月世界」というネオンサインの看板が掲げられていたと、上田純二会員が記憶しています。

話を遡ると、木下芳太郎は沖ノ山炭鉱の納屋頭を務めた後、明治 40 年に朝鮮に渡り、4~5 年後に宇部へ戻ってからは、庶民の娯楽の場として「新川座」(中央大和があった場所)を建設し、さらに老松遊郭を開業しました。とはいえ、木下本人は「宇部の発展こそ何よりも大切」と語り、私費で数万円を投じて常盤湖畔の約 4,100 坪を購入し、桜を植えました。

しかしやがて経営が行き詰まり、木下は渡邊祐策翁に援助を求めます。翁は宇部銀行から 1 万円を借りて貸し与え、さらに木下の前借金 1 万 7 千円に対する保証人にもなりました。

そして今からちょうど 100 年前の 1925 年(大正 14 年)6 月 27 日、

宇部市議会は渡邊翁が上田孫市から買い受けた土地と建物の購入のため、追加予算として15,900円を計上しました。市は実際に3,000円で7棟の家屋を購入し、宇部共同義会から1万円、渡邊祐策からは2,900円の寄付を受け、合計1,775坪の土地を取得。こうして常盤公園は、一般市民のための「清遊の地」として整備されることになったのです。

昭和7年には、木下芳太郎が宇部劇場（エムラがあった場所）を建設しますが、またも資金が不足。再び渡邊翁に援助を求め、1万5千円の小切手を渡されると、「あと3,000円ほど出していただければ、合わせて3万5千円で櫻山を差し上げます」と申し出ました。

このまま他者の手に渡るのを避けるため、翁は喜んで買収し、再び宇部市に寄付することを計画していました。しかし志半ばで翁は逝去。その遺志を継いだ嗣子・渡邊剛二氏が、昭和10年2月に残り3,000円を宇部市に寄贈し、名実ともに常盤公園は宇部市民の公園となったのです。

私たちはこの宇部の歴史、そしてそれを築いてきた人々の物語を、これからの世代へと語り継いでいきたいと思っています。（脇）

石炭記念館「全国からの来館者」

昨年末、端島（通称軍艦島）を舞台としたTVドラマが放映されました。宇部や美祢などの山口県内の炭鉱と、似たところや違う所、

ドラマすぎる描写、さまざまな感想を持たれた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

木下幸吉さん（沖ノ山炭鉱0B、石炭記念館語り部）が逝去された後、「ふるコン会員」兼「炭鉱を記録する会」の会員の私（遠藤）が、週末のどこかでガイドをしています。

宇部の石炭記念館へ遠方からドラマを見て来られた方もいらっしゃるようです。1階のモデル坑道は、全国でも珍しい展示として、特に遠くからの方々が感心されます。



石炭記念館 絵：浅野正策

宇部の炭鉱の閉山から、そろそろ60年を迎えます。当時、炭鉱で働かれた方も少なくなりました。当時のことを、自分の親やおじいさんにもっと聞いておけば良かったと、ご自分の子供や孫たちを連れて、宇部市内だけではなく、全国から来られます。

閉山時、宇部や山口県内に残った人、名古屋や瀬戸内、大阪、東京へ移った人、さまざまだったと聞きます。宇部は、炭鉱を始まり

とする産業も根付いていたため、閉山後も工業都市として残ることが出来ました。

炭鉱が盛んであった頃は、山口県内だけではなく、九州や中国地方、新潟などからも働きにいられていたと聞きます。

石炭記念館では、主に坑内で使用していた機械や道具を中心に展示しています。中には、現在も使っているような道具があり、特に平日は、これらの道具を熱心に見る方々がいらっやいます。休日は家族連れや旅行者で賑わいます。



石炭記念館展望台の内部

最後に展望台にのぼり、外をご覧ください。常盤湖対岸には、江戸時代石炭を掘っていた跡が残る山炭生エリアが広がり、空港側に立てば、九州はもちろん、天気次第では愛媛県の佐田岬辺りも見ることができます。飛行機の離着陸が良く見える場所です。かつて、この展望台が石炭や人員を上げ下げする竪坑櫓（たてこうやぐら）として建っていた場所には大きな商業施設、さらに宇部市街地を囲むように、工場群が広がっています。宇部市の歴史も学べる場所です。どうぞ、皆さまのお越しをお待ちしています。（遠藤）

まち歩き予定表

日時	集合場所・距離	内容
9/27（土） 9：50～12：00	ときわ公園正面入口 約5km	てくてくとときわ公園「常盤公園誕生から100年Part③ 時を語るもの発見 時とは…」正面入口から彫刻の丘まで
10/4（土） 9：30～12：00	ユーピーアールスタジアム 約4.5km	てくてくまち歩き「生まれ変わった恩田スポーツパークと周辺」 恩田スポーツパーク、JR草江駅、恩田河内神社
10/12（日） 10：00～11：00	琴崎八幡宮バス停後ろの駐車場 約1.8km	古地図を片手にまちを歩こう「上宇部やさしいコース」① ※親子連れ大歓迎 渦橋、御旅所、福原邸跡、琴崎八幡宮
10/18（土） 9：50～12：00	ときわ公園正面入口 約1.5km	てくてくとときわ公園「動物園で動物の好きな物み～つけた」 たくさんの植物で囲まれた中で見つけましょう！！

■申し込み、お問い合わせ ※定員30名、受付は開催日の一ヶ月前からです。当日連絡先 090-9060-9752（脇）

宇部市観光交流課 TEL(0836)34-8353 FAX(0836)22-6083

こちらのQRコードからお申し込みができます。 →



